

# 愚図愚図散歩143 日日是好日125

2025.07.01

制作・撮影 浦野俊之





大手町のビル街で出会った百日草。(読売新聞本社前)



今年も池袋の街に模造のヒマワリが咲きました。



二の丸庭園の花菖蒲。





雨の日の二の丸庭園







白いオサジに載せたおしべのサラダ、かおりが良くて美味しいおとぎの国のおままごと。その花の名前はマグノリア？



赤いペンで縁取り描いたようなアマリリスの花。



しながわ花海道(鮫洲入江広場)は、知る人ぞ知る都内の百合(ユリ)の名所です。「ゆり花壇大作戦」を企画し、勝島運河沿いの鮫洲入江広場を中心に福井県坂井市から譲り受けた球根4,200個を地域の方々が植えたものになります。(コピペ)







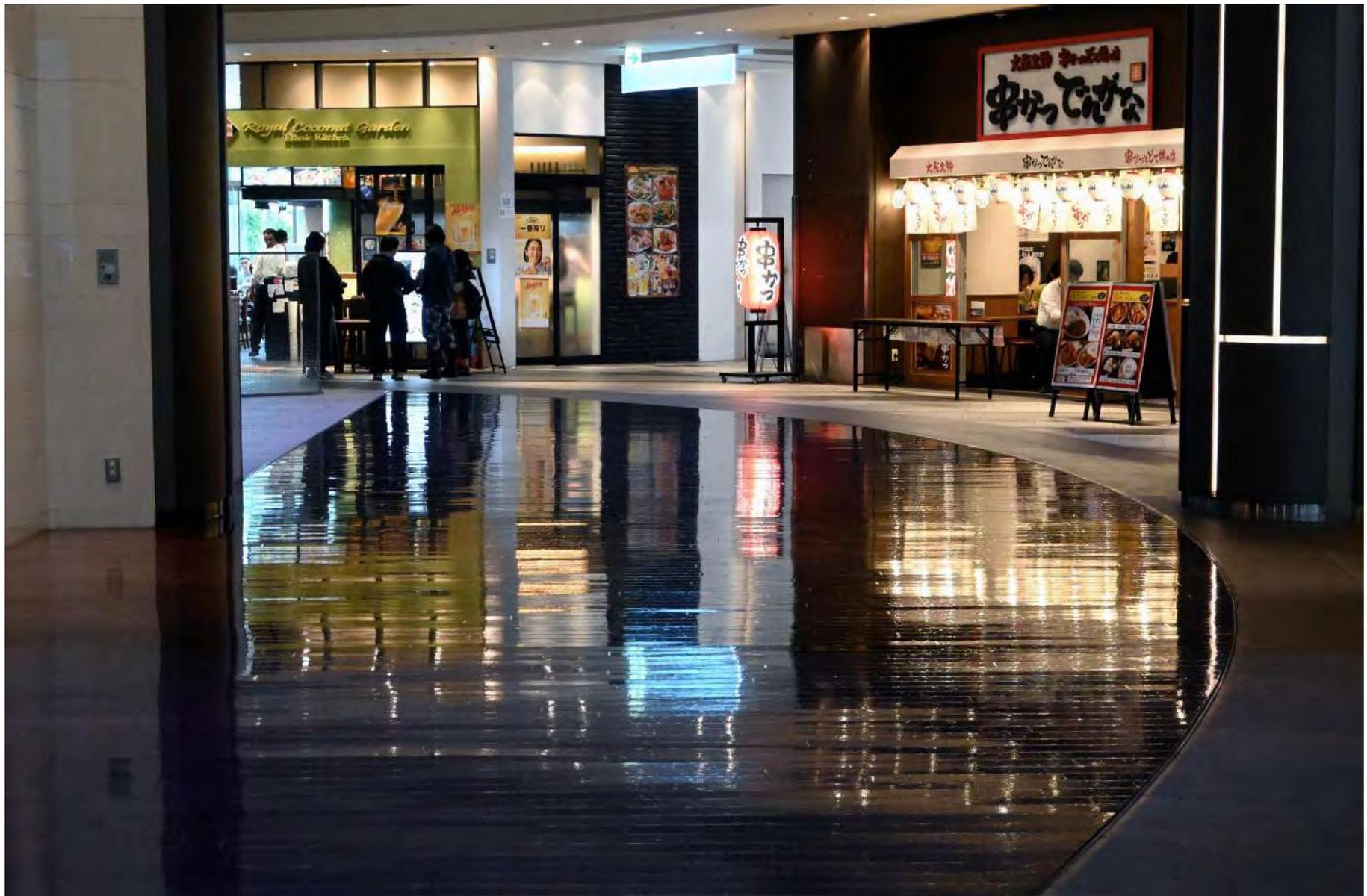
個人宅のお庭も花盛り。(北区王子4)



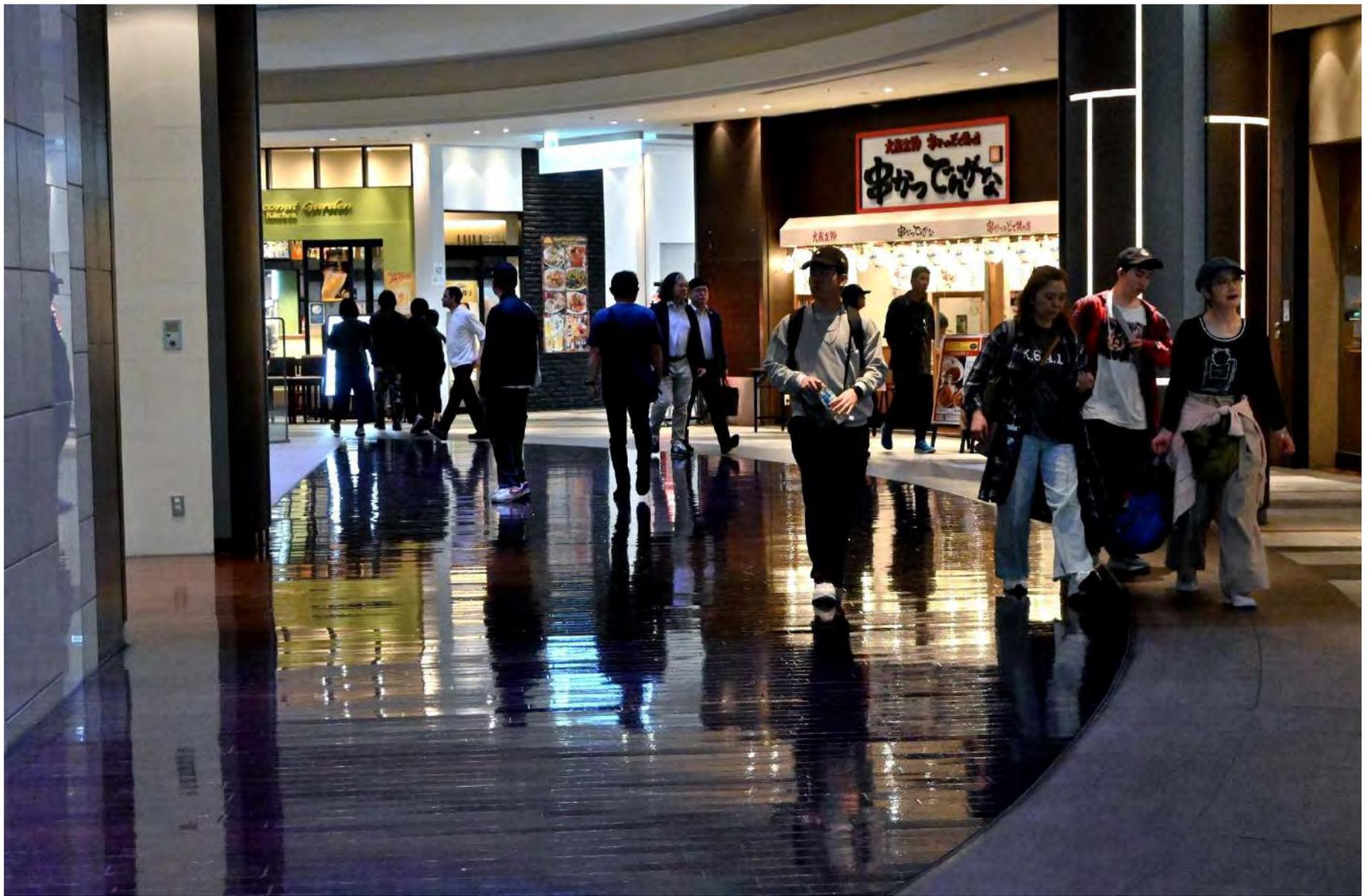
最近では、突然突拍子もなく派手なデザインの家が出現します。(江戸川区平井2-3)



最近のビルの窓は色々な変化があります。



ビルの飲食街の一部に水を張り、池に見立てているのかと思いました。



しかし単に光る床でした。(汐留ビルディング 港区海岸1-2-20)



都会の風景 時に虚像と実像が一体化して見える不思議な風景。(港区浜松町2-3)



店の鏡に映る新橋駅銀座口前



銭湯にしては、入り口が小さ過ぎると訝りながら近づきますと、温泉マークではなく、鍋マークでした。  
(水炊き鼓次郎 港区芝浦1-14)



ビルの窓のステンレスの大きな化粧仕切りに写る抽象模様(港区芝浦1-13)



自然観察公園の原っぱに、昨日は無かった変な黒い線が見えます。さて何だろう、モグラの移動軌跡でもなさそうだし・・・。



子供達がアメリカフウの実を拾い、丁寧に並べたものでした。子供達の集中した遊びに驚嘆しました。



花から花へ、アゲハチョウが蜜を求めて飛びまわる初夏の風物。



すでに以前掲載済みの丸太小屋ではありますが、何時も不安定な気持ちの私にとって、出会うとこの頑丈そうな丸太の木組みに感動してしまいます。(荒川区西日暮里3-7)



突然中東に来てしまったかのような錯覚になる、谷中銀座手前の中東・トルコ・ウズベキスタン料理、『レストラン ザクロ』  
(荒川区西日暮里3-13-2)



ここにも緑の家がありました。珍しく、人の住む証し、二階のベランダに洗濯物が干してありました。(豊島区要町3-3)



梅雨時の緑の館。(北区上十条3)



宋紫山(1733~1805)筆 | 江戸時代 花鳥図 鮮やかな色彩で写実的に描いて居り、ヨーロッパの画家の描いた写実とは違う精密な表現に驚き感嘆しました。(東京国立博物館)



染付蜃気楼図稜花大皿 江戸時代 解説を読みまたまた驚きました。『中国では大蛤が吐き出す気によって蜃気楼はあらわれると考えられていました。蜃とは大蛤のこと。目に見える蜃気楼を染付で描く一方、大蛤と波は型押しでレリーフ状に表されており、不可思議で幻想的な情景を巧みに表現しています。コピペ』成程と思える表現にうれしくなりました。



この大きな壁画は何だろう、宣伝画では無そうですが不思議だと思いました。帰宅後調べますと「東京ビエンナーレ2020/2021」に参加出品されたHogalee氏(アーティスト)の「Landmark Art Girl」と云う作品だそうです。地域コミュニティの再生と課題解決を図り、さらには地域と来訪者を繋ぐことで多くの人々に楽しんでもらえる街を作ろうとする東京ビエンナーレの趣旨で、ペイントしたのだそうです。(千代田区神田小川町1-6)



池袋駅東口駅前の鼻の顔をデザインした交番は皆さまご存知だと思います。池袋に来ると鼻の彫刻や絵を多々見かけると思いますが、いけぶくろ→ぶくろ→ふくろ→鼻に語呂合わせをしたのかと思って居ました。ところが散歩の途中、豊島ふくろ・みみずく資料館に寄り、思いもかけないものを見て驚きました。



ふくろう関連資料が豊島区に  
（書調印式）が行われた。  
ゆいで今回の資料客となった。  
別製から絵画、焼き物等の遺物、  
松浦千景コレクション」とし  
豊島ふくろう・みみずく資料館  
建資料は、約6,573点。今回  
左衛門之夫が「ふくろう関連  
の版に立ててはいつて亡くなっ  
嬉しいことです。ハンドハッ  
ていただくことを、御が一

# 豊島ふくろう・みみずく資料館



© 2004-2012 Toshima Owl Museum

資料館入り口に貼られた地図を見て驚きました。なんと豊島区は、ふくろうが羽を広げた姿をしているではありませんか！！しかも池袋は、ふくろうの中心付近に位置しています。そうか、だからふくろうなのかと納得しました。



鬼子母神ケヤキ並木通りの豊島区案内所は昔蝶屋と言う料理屋だった頃の井戸で、井戸の後ろに建つ家は、『1953年に建てられた木造アパート。歴史的、建築的価値により有形文化財に登録。漫画家の手塚治虫氏が1954～1957年まで住居にしていた建物です コピペ』（豊島区雑司ヶ谷3-19-4 並木ハウス）



売り地にしては華やか過ぎませんか？



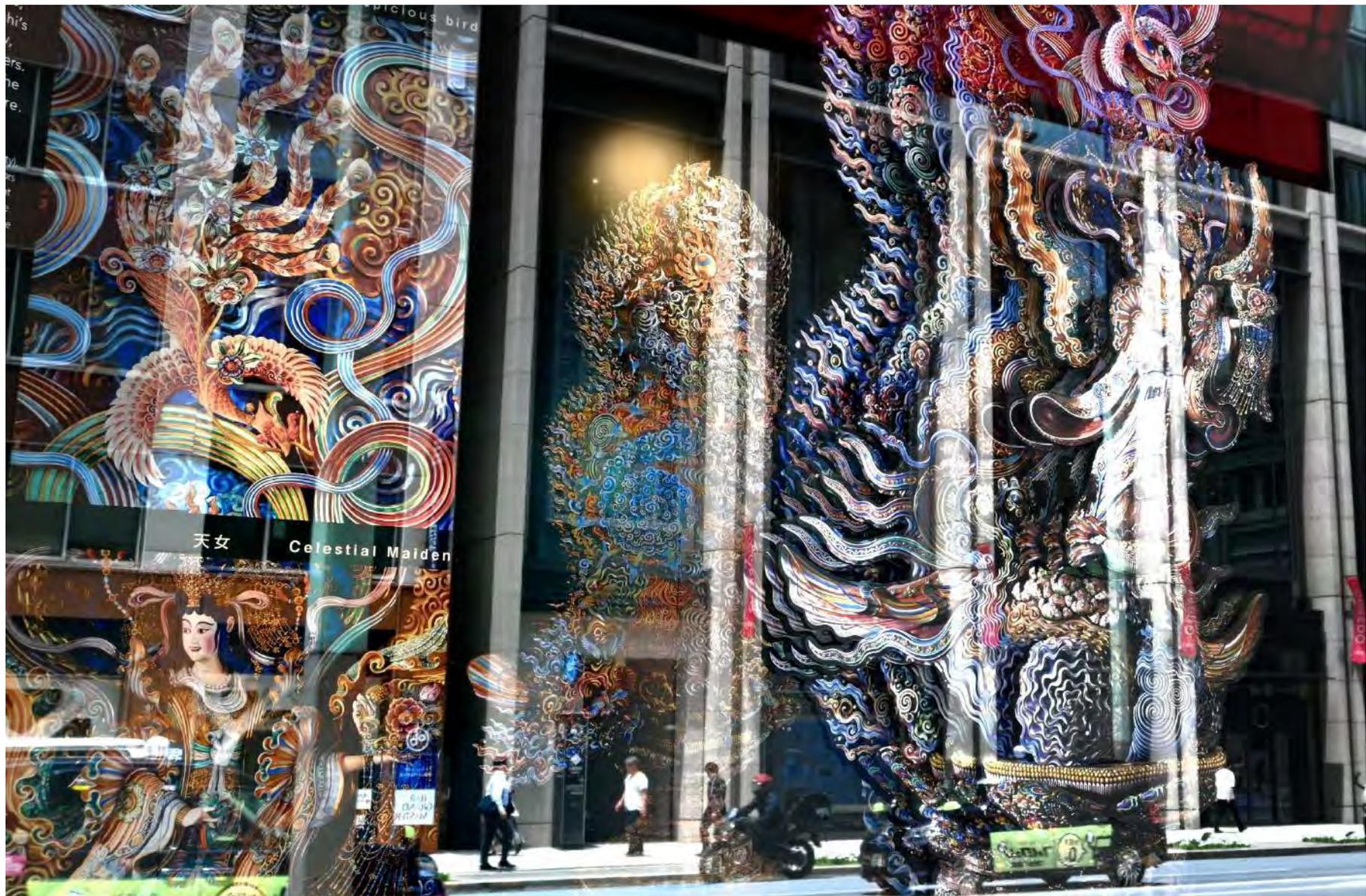
如何したのでしょうか。赤いドレスの姫人形。見ている私も夢を失いそうです。



今年初めてのキノコ、カラカサタケは猛毒だそうです、見るだけならその白さも加わり愛らしい姿にホット気持ちが和らぎます。



クラシックな外観とは全く異なる、内装の新しさ！（三越）



三越前